

# より良く生きる ―出居清太郎先生の世界― 第11回

山本博也

(1)うちのねえやは正直者で本当のこと  
を言うなあ…

ある時、宅のねえやに「すまないが水  
を持ってきてくれないかね」と頼んだ。

すると彼女は、「先生はコタツに入って  
新聞を見ていてヒマでしょう。自分で飲  
みにきたらいいだろう…」と言った。私  
はいつも皆さんに、いついかなる時でも  
不平不満を持つたと教えているが、その  
時はちよつと不満が起こった。しかしそ  
れはとつさのことで、すぐ心は鎮まり、

「うちのねえやは正直者で本当のこと  
を言うなあ…」と思った。それで台所へ  
立っっていこうとすると、「持っっていっ  
やるよ」と言っつて、いい顔を見せながら  
持っつてきてくれた。

(2)あの人の足はマメに動いているな  
あ

ある会員が、「不平不満を持つたと  
われませんが、怠(なま)けている人を見  
ると、よい気持ちではありません。小言  
の一つも言いたくありません。どうすれば  
よいでしょうか」と言っつてきた。

―あの人は怠けている、けしからんと  
侮(あなど)るようでは真心とは言えな

い。そういう時はこう思うのですよ。忙しい最中にマゴマゴしている人があれば、「あの人の足はマメに動いているなあ」、あちこちキョロキョロしている人を見れば、「あの人の目はよく動いているなあ」、どうです、こう思いながら教え導いていけば不平不満はないでしょう。

(出居清太郎先生の言葉から)

(1)のお話は、人間出居清太郎先生のお茶の間での姿が垣間見られてほほえましくもあります。先生に「水を持ってきてほしい」と言われて、「自分で飲みにきたらいい」と言ったお手伝いさんの心はどんな心だったのでしょうか。

冷たい心だったのでしょうか。意地悪な心だったのでしょうか。あるいは反抗

的な心だったのでしょうか。

冷たい心だなあ、と思えば、言われた方はさびしい気持ちになります。意地悪な人だなあ、と思えば暗い心になります。反抗的だな、と思えば不満がわきます。しかし、お手伝いさんの心は結局のところわかりません。

つまり相手の気持ちなど本当はわからないのではないのでしょうか。それなのに私たちは、冷たくされた、意地悪された、攻撃されたなどと勝手に思い込んで、さびしくなったり、落ち込んだり、腹を立てたりしている場合が多々あるように思います。相手は悪意などないのに、私が勝手に悪意と受け取って心を乱し、心を濁すとしたら独り相撲もいいたころです。



カッパ 大西 恵

そうならないために、先生が「うちのねえやは正直者で本当のことを言うなあ」と思われたように、相手の行為の客観的事実のみを、冷静に受け取るだけにすればいいわけです。

(2)の話でも、その人が怠けているのかどうか、本当のところはわかりません。

何か事情があるのかも知れませんが、ですからまず「あの人の足は、」あの人の足はマメに動いているなあ」「あの人の目はよく動いているなあ」と、その事実だけを受け取るように

して、怠けている、自分勝手だとすぐに決めつけないようにしたいものです。

また、(1)の話で、「自分で飲みにきたらいい」とお手伝いさんが言ったのは、それによって先生が神様に試験されたようにも見えます。先生は、一瞬不満の気持ちを消したけれど、すぐにその気持ちを解消し、ご自分で飲みに行こうとされました。つまり試験に合格されたわけです、お手伝いさんは、いい顔をしながら水を持ってきてくれたのでした。

してみると、「自分で飲みにきたらいい」という言葉は、お手伝いさんの口を借りて神様が言った言葉だったということになります。

このように私たちは、いつもいつも、神様から練習問題を与えられて、鍛えら

れていると言ってもいいでしょう。人が育てることでしよう。

らどういふ言葉を投げかけられても、どういふ境遇になっても、動揺転倒しないように、心を濁さないようになるために。

(3)すべて「ええよう(良いよう)」に受け取る  
 相手は冷たい、意地悪だ、悪意を持っていると思ひ込んだり、他の人を怠けている、自分勝手だと決めつけることから生じる、さびしい心や暗い心、不平不満は、魂の栄養にはならないでしょう。魂の栄養になるのは、あたたかい、明るい、喜びの心でしよう。ですから、魂の栄養になるようなあたたかい、明るい、喜びの心が持てるように物事を受け取ることに、それが「良いよう(ええよう)」に受け取るといふことになります。その根本は、人の善意、人間性への信頼と神の導きへの信頼といふことではないでしょうか。

「良いよう(ええよう)」に受け取っていいから、魂の「ええよう(栄養)」になる。さかしま心で受け取っていくと、魂を傷つけ汚し、すこしも栄養にならない。  
 (出居清太郎先生の言葉から)

私たちにとって最も大事なことは、自分の魂を、傷つけたり、やせ細らせたりしないで、栄養をとって、魂を健やかに

発行所 〒170-0011 東京都豊島区池袋本町3-11-1

修養団捧誠会 TEL 03-3971-1493